



はりまや橋商店街でよさこいリターンズ

ことしのよさこい祭り本番で受賞したチームなど6チーム約130人の踊り子がよさこい演舞を披露し、会場は本番さながらの熱気に包まれました。



清流鏡川棚田キャンドルが開催されました

地元住民の方が設置したキャンドルで棚田が美しく照らされました。焼きそばや田舎寿司などの販売もあり、会場は多くの人で賑わいました。



陸上自衛隊第14音楽隊ミニコンサート開催

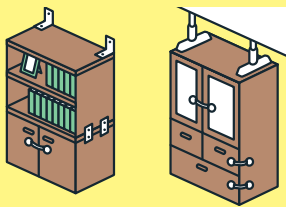
市役所玄関ホール前で陸上自衛隊第14音楽隊12人によるミニコンサートが行われ、その華麗な演奏に多くの人が魅了されました。



「もしも」のときの豆知識 08 防災ひとくちメモ

家具等の転倒防止対策はしていますか

家の中を見渡してみてください。地震が発生した時に、倒れてきたり、出入り口をふさいだりしてしまいそうな家具はありませんか。落ちると危険な重いものが高い場所に置かれていないでしょうか。地震の揺れにより、家具や家電が倒れると、下敷きになってけがをするだけでなく、津波や火災からの逃げ遅れにつながる恐れがあります。いま一度確認し、家具などの固定や安全な配置を検討してみてください。自身や家族のかけがえのない生命を守るために、まずは身近な家具等の転倒防止対策から始めましょう。



地域防災推進課では、市民の皆さんのご自宅に委託業者を派遣して家具等の固定を支援する「高知市家具等転倒防止対策支援事業」を実施しています。今年度の申請受け付けは令和8年1月30日金までです。申し込みはお早めをお願いします。

詳しくはこちら▶



【問い合わせ】地域防災推進課 ☎823-9040



- 文化振興課
よさこい高知文化祭推進室

こんな仕事をしています

- 01 参加団体の支援
- 02 広報活動
- 03 実行委員会の運営



第41回 国民文化祭 第26回 全国障害者芸術・文化祭
よさこい高知文化祭2026
令和8年10月25日(日)~12月6日(日)



令和8年の高知は文化の年！

詳しくはこちら▶



令和8年秋、「心踊る、文化咲く」をテーマに、国内最大級の文化の祭典が「よさこい高知文化祭2026」と銘打たれ、高知県で初めて開催されます。音楽、演劇、舞踊、文芸、美術、伝統文化、歴史文化などさまざまなイベントを市内各地で実施予定。詳しくは随時HPでお知らせしますので、ぜひご覧ください。

【問い合わせ】
よさこい高知文化祭
推進室 ☎821-9218



▲10月25日に東洋電化中央公園で開催された県実行委員会主催の「一年前イベント」での除幕式。



人権尊重のまちを共に築くために

SDGsの基礎の一つである「世界人権宣言」は、二度の世界大戦を経て平和への希求が深まる中、1948年12月10日に基本的人権の尊重を国際的な基準として掲げ、国連で採択されました。

その後、宣言の意義を世界に広め、人権尊重思想の普及を目的として、国連が12月10日を「人権デー」と定め、日本でも、12月4日から10日を「人権週間」と定めています。

法務省人権擁護局が作成する冊子「人権の擁護」では、「人権」とは、「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、誰にとっても身近で大切なもの、違いを認め合う心によって守られるもの」とされています。

理解を深め、人権意識を高めていくことに加え、現代の人権問題に対応した新たな知識を積み重ねていくことが重要です。

市では、人権に関する講演会を開催しており、また市内全域26の行政地区では地域住民の皆さんによる「人権啓発推進委員会」が組織されています。各地区の委員会では、人権に関する学習会や、地域の子どもの向けの映画会開催のほか、人権週間には人権標語の入ったのぼり旗の設置など、市民の人権意識の高揚を図るため、さまざまな人権啓発活動に取り組んでいます。

人々がお互いを理解し、支え合う人権尊重のまちを共に築くためには、自分にできる身近なことから始めることが大切です。まずは、お住まいの地域の委員会の活動に目を向けてみませんか。活動には、どなたでも参加できます。

私たち一人一人が、その第一歩を踏み出し、歩みを進めていきたいと思います。

【問い合わせ】人権同和・男女共同参画課
☎82339449

歴史万華鏡

〈155回〉

文化施設の情報発信と関係人口

オーテピア高知図書館

資料管理担当 徳平 晶

『goodieアフタヌーン』(講談社)に連載中の『タイムマッド〜タイムスリップ〜』は、架空の都市の公務員が主人公の漫画である。作者は武市半平太を主人公とする『サムライせんせい』の黒江S介先生で、主人公の勤務先は高知市役所がモデルであるなど、高知との縁を感じる作品でもある。そんな同作の第十一話に、オーテピアそっくりの図書館(作中では「ユートピア」)が登場した。もちろんこれは当館をもじったものである。黒江先生と高知の文化施設とは、これまでにも「サムライせんせい」における横山隆一記念まんが館や県立歴史民俗資料館との連携展示などで関わりがある。そして今回、新たに当館とも関わりができたわけで、大変ありがたいことである。



© 黒江S介/講談社

このとおり、黒江先生は高知と深く関わっていたに違いないが、こうした特定の地域と継続的に関わりのある人は「関係人口」と呼ばれる。少子高齢化・人口減少が進む地方自治体においては、地域課題の解決等への期待を込めて、この関係人口の創出・拡大への取り組みが進められている。人口減少が著しい高知においても、文化施設はその課題に向き合い、解決に取り組む必要がある。幸いにして、文化施設はそれぞれ固有の地域資源を持っており、それを適切に扱える人材がいる。例えば、その特性を利用し、地域資源を活用した情報発信を行うことは、地域への理解が深まる効果が得られ、関係人口の創出・拡大につながるとみられる。そして、関係人口からの情報発信が、さらなる創出・拡大を生むという好循環をもたらすことも期待される。今回の黒江先生と当館との関わりは、そうした事例に位置付けられよう。新たな社会貢献を果たすという意味でも、文化施設の情報発信は重要である。

なお、当館三階展示室では、高知市をテーマとした文学や美術を紹介する企画展示「高知市を描く」を令和八年二月一日まで開催している。「タイムマッド」の複製原画も特別に展示しているので、ぜひご覧ください。